

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日： 平成23年3月11日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072300355		
法人名	有限会社 野いちご		
事業所名	グループホーム 野いちご	ユニット名	
所在地	福岡県八女市矢原51-1		
自己評価作成日	平成23年2月10日	評価結果市町村受理日	平成23年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成23年3月10日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「今を大切に」というグループホーム野いちごの基本理念に基づいて、その時、その時を大切に、入居者の方々が自分らしく、楽しく生活が送れるようお手伝いしています。
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

八女市にある“グループホーム野いちご”は、周囲に田畑が広がるのどかな地域にあり、B棟からは朝日、A棟からは夕陽を眺めることができる。農家の方々が大切に育てている田畑の麦やお米の成長も、全てが日々の会話の話題となり、ホームで暮らすご利用者が昔から培ってきた農業の知識や経験を職員に教えて下さっている。お天気の良い日には、職員とご利用者が一緒に菜の花を摘みに出かけたり、田畑を眺めながらお散歩したりと、自然を感じながら寛いだ時間を過ごされており、ご家族も一緒に散歩される光景も増えてきている。開設から8年、“野いちご”の生活を支え続けてきた専務(管理者)、ホーム長、事務長(式番館管理者)、チーフ等の幹部の方々の結束は強く、近くに開設された“野いちご式番館”と共に歩んでこられた。22年夏頃から組織体制を更に強化し、各ユニット毎にリーダー制が作られた。主任(介護支援専門員)、各ユニットリーダー、全職員も更に結束し、理念の実践に向けた意見交換が活発になってきている。ご利用者から言って頂く「ありがとう」という言葉や、職員の頭をなでて下さる姿に心癒されながら、今日も“にぎやかに”、“今を大切に”するケアが続けられているホームであった。
---

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今を大切に」という基本理念に基づいて、日常のケアを通して、その都度共有できるようにしている。	開設時に作成された理念は、(1)・・・『今』を大切に暮らし・・・から始まり、(6)・・・地域と密着した・・・(7)・・・ご家族が気軽に立ち寄っていただける・・・という地域密着の視点も盛り込まれている。この7つの理念のもと職員のアイデアは増えており、職員の優しさも発揮され、外出行事も多く行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会の会合や道路愛護に参加し、交流している。	朝7時からのお宮の掃除活動に管理者が参加されている。近隣を散歩中は地域の方との挨拶を交わし、畑で採れた野菜や果物などを頂くこともある。小学校の運動会等にも見学することができ、ご利用者もとても喜ばれている。ホーム主催の行事は“野いちご新聞”で回覧し、ボランティアの方や子ども達等が来て下さっている。	今後も、理念の“(6)地域の特性を活かし、地域と密着した・・・サービスを目指します”という事も意識し、地域の方との会話を地道に増やし、ホームの役割等を伝えていく予定である。地域の実状をより知るよう努め、地域に必要な事の把握をしていきたいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	慰問の受け入れや夏祭りに地域の方に来ていただいたりして、認知症は特別ではないということを知っていただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施した行事の報告と、予定を伝え、何かいいアイデアがないかを会議の中で参加者から意見を聞いたりして、出来るだけサービス向上につなげて行けるようにしている。	ご家族、民生委員、地域代表の方、市の担当者に参加頂き、2ヶ月に1回開催しており、ホームの近況報告や行事報告を行っている。前民生委員の方の協力もあり、地元の消防団の方に視察に来て頂くことができた。それぞれの方からの質問に答えながら、意見交換を続けており、“野いちご新聞”にも会議内容が紹介されている。	民生委員の方が交代された。今後も会議の場で地域の実状を知り、地域に必要な事の把握に努めていく予定である。前民生委員の方や消防団の方等、ホームの応援団となって頂ける方にゲストとして参加頂く等、より多くの意見を頂ける取り組みを続けていく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には必ず来ていただき、事業所のことは毎回伝えている。また、相談事があるときには、市の担当者に電話したり、訪問したりしている。	更新申請時には、介護支援専門員が市の窓口を訪問しており、顔馴染みの関係になっている。運営推進会議の時に、市の担当者に“野いちご新聞”を渡しており、ホームの取り組み等の報告も行っている。制度に関する不明点などを相談した時にも、いつでも相談に乗って頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、基本的に21時～6時までの間防犯を目的として行っている。身体拘束は行っていないが、拘束と思われるようなことは、その都度スタッフ間で話し合っている。	ご利用者の不安の原因を知り、少しでも安心できるように努めている。“帰宅要求”の強い方には自宅と一緒にいたり、ゆっくりお話するようしており、気分転換の目的で一緒に散歩をする事もある。入居前に病院で身体拘束を受けていた方にも、「当ホームでは身体拘束を行わない」事を伝え、ご家族と対応方法を考えられた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等で、虐待防止は促している。日頃から利用者の全身状態の確認など、何か気付いたことなどがあれば、毎朝の申し送り時などに話し合ったりしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前年度に包括支援センターより講師で来て頂き、成年後見制度、権利擁護の講義を受けることが出来た。少しではあるが、家族に対してアドバイスをしてくれるようになった。	現在、制度の利用を検討している方がおられ、管理者と介護支援専門員が中心になって話し合いが行われている。21年度には、地域包括の方が、職員とご家族に制度に関する講義をして下さった。参加されなかったご家族には資料が配布されたが、説明用のパンフレットは、常時、ホームの玄関に備え付けである。	リーダー制の導入も行われ、職員の入れ替わりも若干みられた。全職員が制度の理解をより深めるためにも、23年度に地域包括の方等に再度依頼し、制度に関する勉強会をしていきたいと考えておられる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は説明を十分に行い不安な事や疑問点がないかお尋ねし理解と納得を頂いた上で契約を締結している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等から意見や要望が出された時には、運営推進会議に取り上げたり、毎月ご家族に郵送しているお便りで、報告ならび今後の取り組みを記載するようにしている。	写真入りの新聞やお便りを通して、ご家族に暮らしぶりを報告し意見を伺っている。ご家族の来訪時にも「何かないですか」とお尋ねしている。「寒い時の外出は無理かもしれないが、時々外の空気を吸わせてほしい」等の意見も頂き、花の水やりの時などに少人数ずつではあるが、外の空気を吸える機会を増やすようにした。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を行い、スタッフの意見が反映できる場を設けている。	22年からリーダー制も導入され、更に意見を言いやすい環境が作られている。毎月の会議や申し送り時にも、行事やケア内容等の細やかな意見が増えてきている。どのような意見や提案に対しても否定的な態度は取らず、まずは傾聴するようしており、「ここは意見を伝えやすいです」という職員の言葉も聞かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公休希望を聞くことにより、資格取得や子育て支援ができるように努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	求人に対しては、年齢、性別、経験は不問とし、未経験者を数多く採用している。また、子育て応援求人として職安に登録している。	経験のない方でも、気持ちがあっ直ぐな方や介護職を希望している方を採用している。職員の年齢層は幅広く、管理者は、年代に応じた考え方を尊重している。コミュニケーション、日本舞踊、レクレーションの盛り上げ役、パソコンが得意な方等、職員の方が個々に発揮されており、職員の資格取得等のための勤務調整も行われている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員会議や朝の申し送りの中で、人権についての啓発は行っている。	管理者や主任は、日々「誰と接する時も個人を尊重した言葉遣いで」「職員の言葉遣いで、ご利用者の心の波も変わるので、チームワークも大切に」等を職員に伝えている。職員も十分に理解し、ご利用者の人権を尊重し、人生の先輩として日々の寄り添いを続けている。外部研修の場でも人権の尊重を学ぶ機会が作られている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育成の為に計画は立てていないが、段階に応じてのホーム内研修や外部研修に参加させている。また、自発的な資格取得のための公休希望を受け、スクーリングや資格取得試験に参加しやすい環境にしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八女地区介護保険事業連絡会グループホーム部会等を通し地域の同業者との情報交換や交流を年6回ほど行っている。		
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人及び家族、入居前に入院や入所なさっておられた病院や施設等からの情報収集を行いながら要望に耳を傾け本人の安心を確保する為よりよい関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の問い合わせや相談の段階から家族等が困っておられることや不安な事に耳を傾け関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始にあたっては本人及び家族の意向を良く聴きその時にまず必要とされている支援は何か？を意識し必要な支援を見極めるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事やしたい事を確認し本人の意思決定を尊重しながら共に行い、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会の際には生活の状況等をお伝えしたり家族より御話を聴いたりしてケアに反映している。また、毎月家族への御便りにて日頃の生活状況等をお伝えし本人と家族の絆を大切にしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や友人、近所の方等面会にお見えになられた時には、本人とゆっくり話が出来るようにしている。	日頃の会話の中で、馴染みの人や場所を知るように努めている。近所を散歩した時にお会いした知人の方に、ホームに来て頂けるように声かけしたり、馴染みの散髪屋の方に来て頂くなど、馴染みの方との関係の継続を大切にしている。ご家族の協力も頂きながら、お墓参りや法事、外食等もして下さっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり合いが出来るようにスタッフが声掛けを行い関係作りに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際には必要があればいつでも相談に応じるようにしている。		
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々コミュニケーションを図りながら一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。	職員とご利用者の寄り添いは日常で、精神的な変化にも心を配っている。些細な表情の変化や行動から気持ちを汲み取る努力をしており、“自宅”が気になる方には一緒に自宅に行き、庭の草取りをして帰ってくる等、“真の願い”を把握するようにしている。ご家族の面会時にも、生活歴や以前の仕事、好きな事を教えて頂いている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを利用しながら項目に沿って生活歴や馴染みの暮らし方・生活環境・これまでのサービスの利用の経過等把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートを利用して一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話し合いは毎月の全体会議にてスタッフ間で実施し、本人がより良く暮らすための課題やケアのあり方について検討行っている。	介護支援専門員と担当職員が中心になりアセスメントが行われ、ご本人とご家族の意向も書かれており、全職員や医師の意見も踏まえた計画となっている。“編み物”や“洗濯物たため”など、ご本人の特技やお好きな事も計画に盛り込まれ、栄養管理と合わせて歩行訓練等のリハビリの視点も大切にされている。	排泄や入浴、家事等で、ご本人が“できること”も計画に書かれている。今後は、センター方式の24時間シート等も活用しながら、より日常生活全般に渡る支援内容も書いていきたいと考えられている。ご本人やご家族、医師の役割も明記していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録に日々の様子・ケアの実践、気づきを記入している。スタッフは記録を確認したり申し送りを行ったりして情報の共有を行い実践につなげている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけなじみの関係を大切にして柔軟な支援を心がけている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慰問の受け入れや小学校の行事へは積極的に参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に今までのかかりつけ医を継続して頂いている。	往診や受診後は、適宜、面会時やお便りでご家族に報告しており、ご家族が通院介助された時も、受診結果の共有ができています。週1回、武香館の看護師が訪問し健康チェックが行われ、日々の体調変化も迅速に看護師や医師に相談できている。体調に応じて、週3回、点滴のための往診をして下さる等、医療連携が継続されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師の訪問があり、その際看護師に情報を伝えたり相談を行っている。また、かかりつけ医院の看護師に相談行う事で適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	生活環境の変化により悪化するケースがあるため、入居者、家族、医師や医療連携関係者とも相談しながら退院が出来るように相談している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合等の対応についての説明は行っている。	契約時に終末期等の意向確認をしており、「最期までここで・・・」という方もおられる。ご利用者の状態が悪化した場合、夜間も含めて主治医が往診して下さい、職員も安心して終末期ケアが行えている。ご家族も頻りに来られ、点滴時はご本人の手をつなぎ、そばで付き添って下さるなど、最期まで職員と一緒にケアをして下さっている。夜の状況は専用のノートに書き、ご家族に伝えられている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急教室を行ったりして、応急手当や初期対応の訓練は行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署より指導員に来て頂き、年2回の避難訓練は確実にしている。	年2回、消防署の方に来て頂き、ご利用者、ご家族と一緒に、夜間想定避難訓練と消火訓練が行われている。年に1回は、訓練後、消防署の方から救命救急の講義があり、AEDの使い方等も教えて頂いている。運営推進会議の時には、委員の方に災害時の協力をお願いしており、災害に備えて、水や非常食等も準備している。	23年度は、運営推進会議の時に紹介頂いた地元の消防団との交流を更に深め、合同での避難訓練を実施したいと考えられている。消防団の方も、「救急蘇生等の最新情報を学びたい」という希望もあり、一緒に知識と技術を高めていく予定にしている。
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入室の際にはノックや声掛けを行ったり排泄時は扉を開けたままにしない等配慮している。	管理者は、職員のチームワークを大切に、より良いケアに繋げる事の大切さを職員に伝えている。職員は優しく、チームワークも抜群で、ご利用者の意思を大切にされている。ご利用者への言葉遣いにも配慮し、リビングのベッドで休まれている方には、ケアの時に適宜屏風を立てるなど、プライバシーへの配慮も行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけやコミュニケーションを行う中で本人の思いや希望を表出できる場面があるようにし、日常生活の中で自己決定できるように働きかけている、		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせ、スタッフの都合ではなく本人本位に考えてケアを行っていくようにしている。日々その人らしい暮らしが出来るよう努めていきたい。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類のコーディネートやお化粧などを個別に、お一人おひとりに合わせた支援をしている。ご自分で身だしなみが出来る方へは自由におしゃれを楽しんで頂けるようにご本人にお任せし確認を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には野菜の皮むきや切り込み等下ごしらえを行って頂いたり、トレー並べや箸並べを行って頂くなど、共に実施し準備をしている。	ユニット会議では、ご利用者一人ひとりの嚥下状態等について話し合いが行われ、管理栄養士でもあるケアマネが献立を作成している。ホームの菜園で採れた野菜や、地域の方から頂いた野菜を使った料理が提供されている。天気の良い日にはテラスで食事をしたり、花見の時期には、お弁当を持参し、外での食事を楽しんでいる。	温泉に出かけた時のバイキング料理が好評だったこともあり、今後も、選択メニューやバイキング料理等を取り入れていきたいと考えている。更なる取り組みに期待していきたい。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎日確認し記録表に記入している。飲み物は個別に嗜好に合わせ提供し、水分量は1日のトータルを集計している。食事量は個別に身体状況や体調等に合わせて提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎食後に実施している。また、歯科医による口腔ケアを希望者に週1回実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに応じて支援を行っている。定期的に声かけ誘導を行いトイレにて排泄して頂いている。	トイレ誘導のタイミングが合わずに失敗された時には、“服が濡れたので替えましょうか”等、さりげなく声かけしたり、トイレでの排泄時は、扉を開けたままにしない等の配慮を行っている。ユニット会議では、パッドを使用する時間帯や、使用するパッドの大きさについて検討する等、自立支援に向けた話し合いが行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に排便時間や排便量を記入し便の状態等観察行いスタッフ間で情報共有行う等毎日気にかけている。きな粉牛乳や水分量、体操やマッサージ等行い働きかけたり、個別に便秘予防の支援を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日午後より実施し、可能な限り個々にそった支援を行っている。	ご利用者の希望や好みに応じて、入浴回数や順番、入浴時間、湯温などに対応しており、入浴を好まない方には、時間を置いて声かけを行っている。楽しい入浴時間となるよう、職員との会話や馴染みの歌を唄っており、季節に合わせて柚子湯や菖蒲湯を楽しんで頂いたり、温泉に出かける機会も作られている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じての休息を支援したり、一人ひとりの習慣やその時々状況により安眠できるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事表のファイルに最新の処方箋を綴り処方薬の目的や副作用・用法・用量が確認及び理解できるようにしている。服薬支援行い症状の変化には特に注意して確認に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を確認し出来る事を見出し、したい事の希望に沿って個別に役割・気分転換等の支援を行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って、その日の体調や健康状態・外気温等屋外の状況に応じ可能な限り外出支援に努めている。季節感のある外出行事を実施したり、買物と一緒に رفتったりしている。	毎日の食材の買い出しに出かけたり、お天気の良い日は、ホーム周辺のお散歩を楽しんでいる。季節に応じて、桜や藤、コスモスなどのお花見に出かけ、気分転換をいただいている。ご家族の協力で外出する機会も多くなり、お正月には、3名の方が外泊され、5名の方がご家族との外出を楽しまれた。ご利用者の希望で、馴染みのお店やご自宅に出かけている方もおられる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じて、希望があればお金を渡し使ってもらえるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る方については電話や手紙のやり取りが出来るように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に生活音には注意し、利用者が不安にならないように、混乱を招くような音や動きには注意している。	食堂兼リビングの天井は高く、圧迫感を感じさせない造りとなっている。ユニット毎にリビングの窓から見える景色が違い、外の景色を眺めながら、ご利用者との会話も弾んでいる。リビングには畳のスペースもあり、ご利用者が思い思いに過ごせる空間となっており、ご利用者の好きな音楽が流れている。換気扇が設置され、時間を決めて窓を開けるなど、空気の流れや匂いにも配慮されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、椅子の配置やソファに座って頂く場所及び共用空間内で過ごして頂く場所により思い思いに過ごせるよう配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には可能な限りご本人様の使い慣れたものや好みのものを持参して頂いている。	ご利用者が、自宅で使用されていた馴染みのベッドやテーブル、椅子、タンス、鏡台、仏壇などを自由に持ち込んで頂いている。畳の部屋を希望されれば、畳を敷くなどの対応も行っている。必要に応じて、電動ベッドの貸し出しも行われており、一人ひとりに合わせた手すりも設置されている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置や引き戸、ドアノブの形状等住環境の整備と共にトイレや浴室の場所がわかるように表示する等で安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	町内会に加入し、町内会の会合や道路愛護等に参加している。また、ホーム主催の行事に小学生や地域のボランティアの参加もあるが、地域の中での役割が不明確である。	地域の特性を活かし、地域に密着したホームとなり、地域の方がいつでも気楽に立ち寄れる場所になれるようにする。	地道に地域の方との会話を増やし、地域の実状をよく知るように努め、地域に必要な事の把握をする。	12 ヶ月
2	4	民生委員の方が交代されたあと、後任の方が多忙で運営推進会議に参加されていないので、地域の方の参加は、近所の方が一名のみの参加である。	運営推進会議で、より多くの意見を頂けるように、地域代表の方々の参加者を増やす。	民生委員だけに拘らず、地域の消防団の方等に参加への声かけを行っていく。	12 ヶ月
3	28	現在、排泄や入浴、家事等で、ご本人が出来ることをケアプランに上げている。より日常生活全般に渡る支援内容にしていきたい。	ホームのスタッフのみの関わりでなく、入居者に関わるホーム以外の方々(御家族、地域の方、医師等)や資源を活かし、より豊かなものになるような計画を作成する。	センター方式を活用し、2表には、入居者に関わるホーム以外の方々(御家族、地域の方、医師等)や資源の役割も記載する。	12 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月